

Mercure des Arts 海外アクセス解析資料

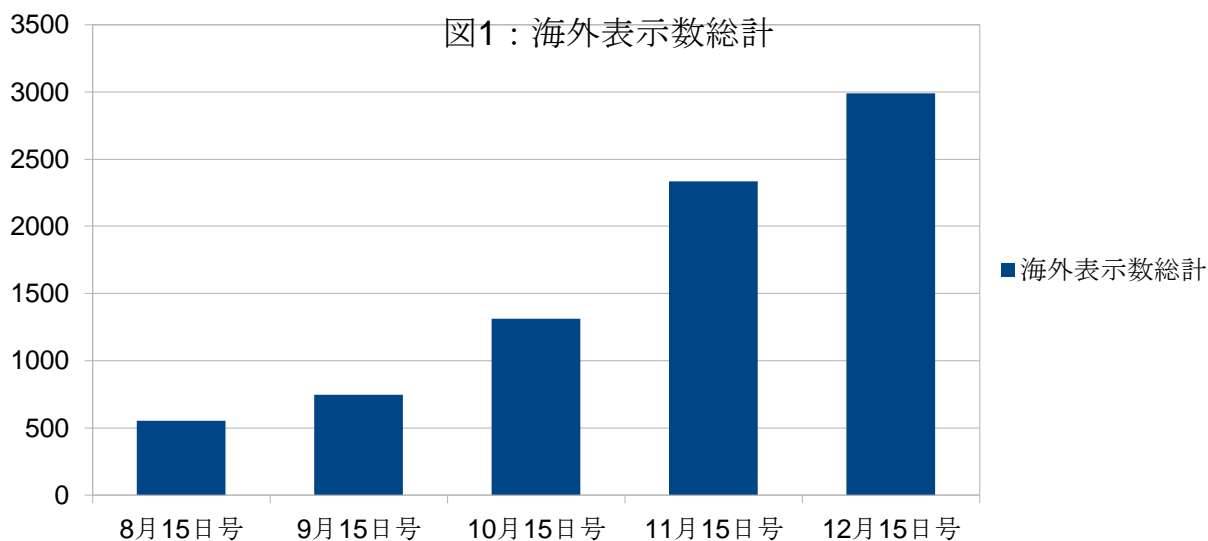
資料作成：齋藤俊夫&丘山万里子

アクセス解析ツールの変更により、2020年8月以降のデータを解析対象とした。前回の
ような各記事毎の集計がとれず、アクセス数値のみとなる。

1. 海外表示数の総計（8月15日号～12月15日号：調査日毎月13日以下同様）

（アクセス順位順）

- 1) 12/15号：2990
- 2) 11/15号：2337
- 3) 10/15号：1312
- 4) 9/15号：746
- 5) 8/15号：553

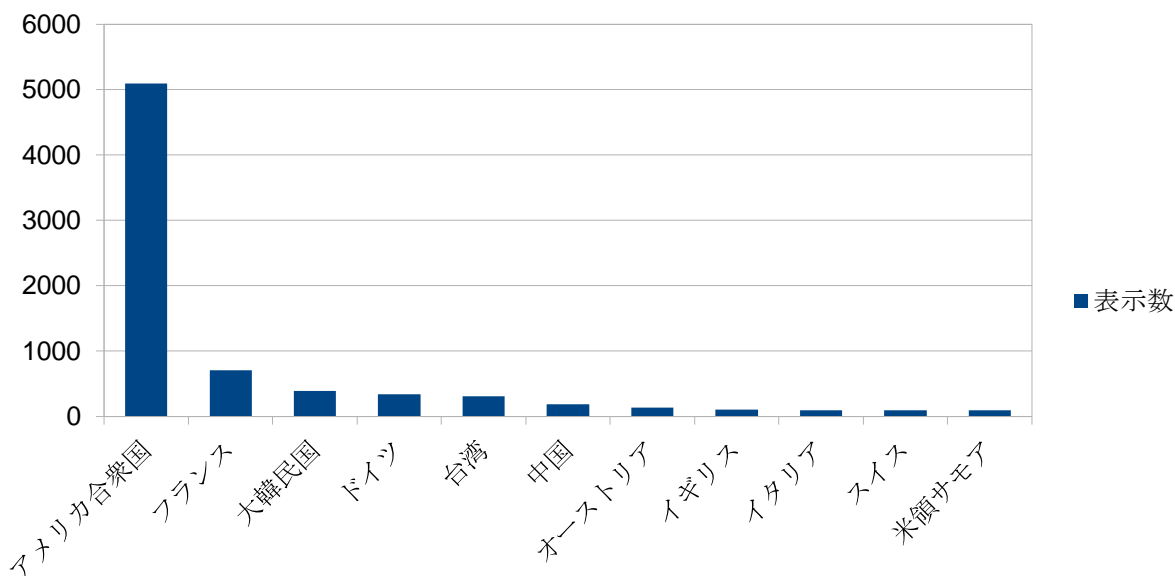


2. 表示数総計上位10カ国

- 1) アメリカ合衆国：5092
- 2) フランス：709
- 3) 韓国：395
- 4) ドイツ：342
- 5) 台湾：312
- 6) 中国：191

- 7) オーストリア：141
- 8) イギリス：105
- 9) イタリア：94
- 10) スイス：93
- 10) 米領サモア：93

図2：海外アクセス上位国表示数



3. 月ごとの海外表示数上位5国

◆8/15号

- 1) アメリカ合衆国：119 表示数
- 2) 韓国：101
- 3) 中国：66
- 4) フランス：64
- 5) 台湾：63

◆9/15号

- 1) アメリカ：301
- 2) フランス：120
- 3) 韓国：89
- 4) オーストリア：52
- 5) ドイツ：43

◆10/15号

- 1)アメリカ：604
- 2)フランス：202
- 3)台湾：122
- 4)ドイツ：113
- 5)韓国：72

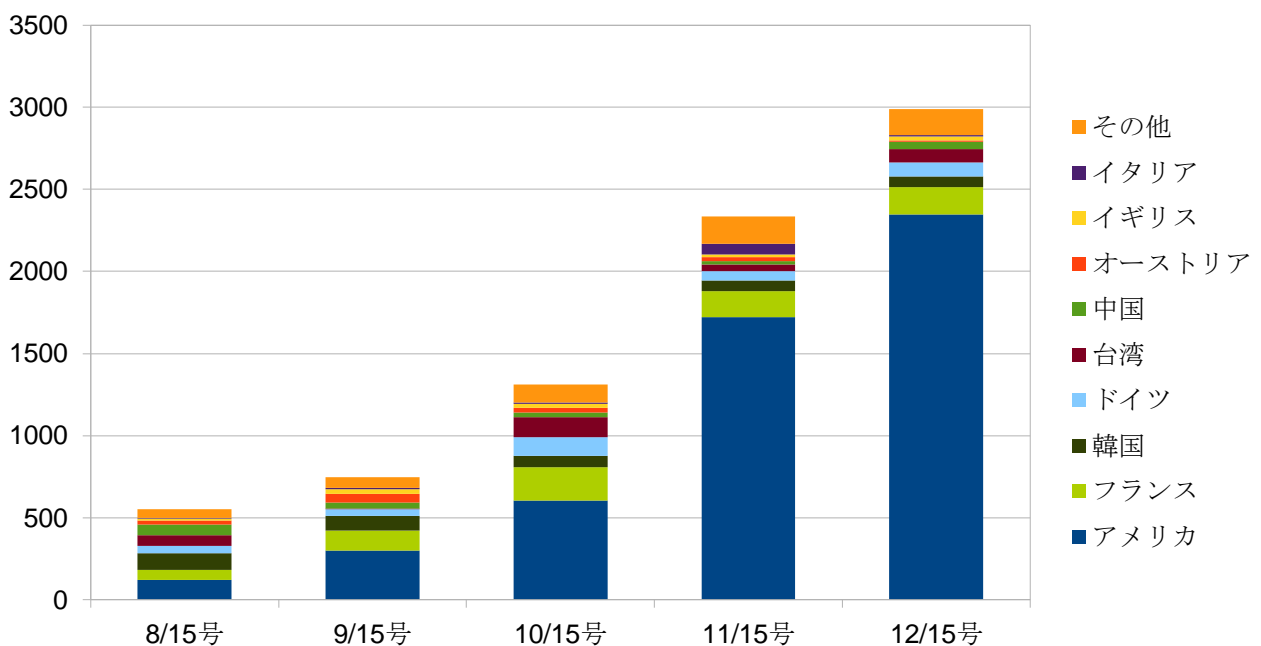
◆11/15号

- 1)アメリカ：1,721
- 2)フランス：158
- 3)イタリア：68
- 4)韓国：66
- 5)ドイツ：58

◆12/15号

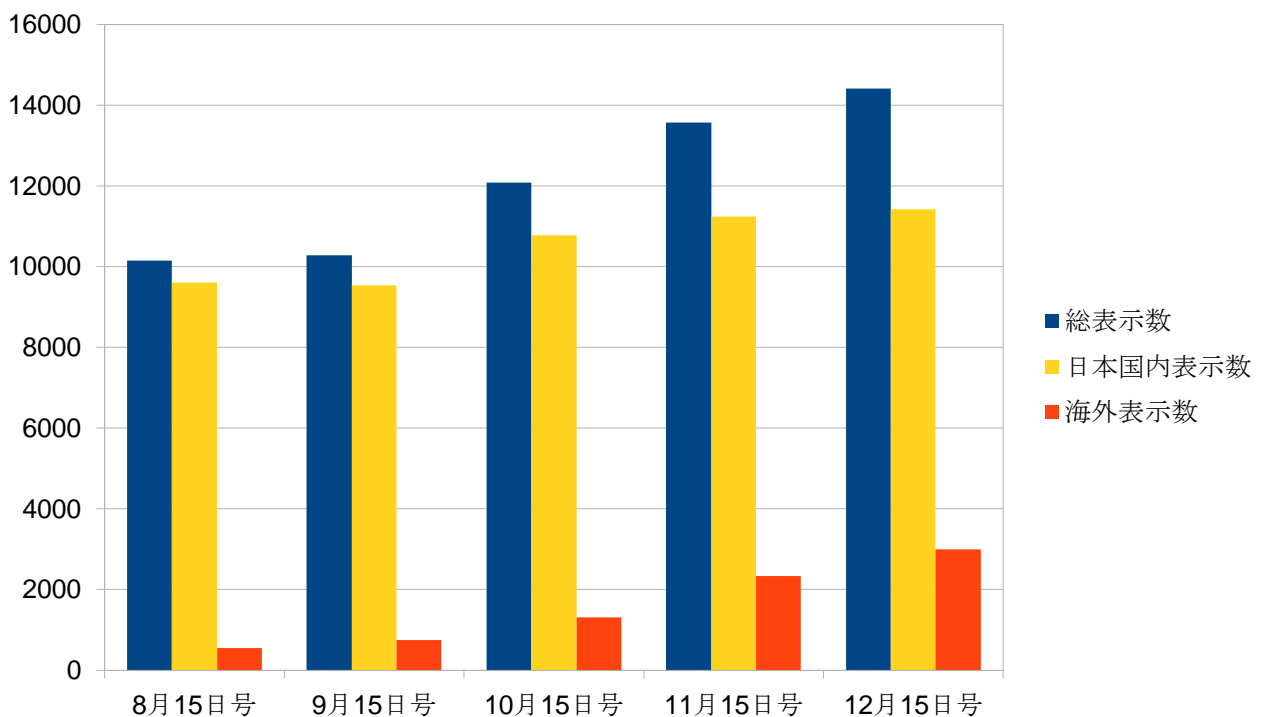
- 1)アメリカ合衆国：2,347
- 2)フランス：165
- 3)ドイツ：84
- 4)台湾：84
- 5)韓国：67

図3：海外アクセス国別内訳



- ★ 図1に見られる通り海外アクセス数がここ5ヶ月で6倍近くに増加している。
- ★ 内訳は図3の通り、8月号の時点ではアメリカはアクセス数1位ではあるも、他国とそれほど差はないが、その後指数関数的に急増し、12月号時点では海外アクセスの78%を占めるに至っている。要因は不明だが、コロナ禍での生活パターンの変化が最も顕著に現れた可能性を示唆しておく。
- ★ アジア圏・漢字文化圏の韓国・台湾・中国のアクセスがコンスタントに多いことも指摘したい。今年から始めた橋本秀美「漢語文献学夜話」の読者がそれらの国にいる可能性が高い。

図4：総表示数、国内表示数、海外表示数



- ★ 8月から海外アクセスの表示数が増える（図4の青と黄の差＝赤の数値）と共に、総表示数中の海外アクセスの割合も8月号では5.6%であったが、12月号では19%まで大きくなってきている。
- ★ 記事ごとのアクセスが不明ゆえ断言はできないが、「五線紙のパンセ」などで世界的に活動している最前線の日本音楽家の記事が注目されているのではないだろうか。

4. 2020年3/15号～7/15号毎号記事海外アクセス数トップ5

◆3/15号

- 1) コラム：音楽にかまけている | コロナのなかのマイアベア、そしてドイツの文化的底力
Berlin, Munich, Paris, Stuttgart, Vienna, Frankfurt, Hamburg, London 他
- 2) コラム：特別寄稿 | 私のフランス、私の音 | (3) 音(と味)のアイデンティティ
Paris, Recklinghausen, Ile-de-France, Amsterdam, Arcadia, Busan, Glasgow 他
- 3) コラム：カリフォルニアの空の下 | 教育のデジタル化
Torrance, Rancho Palos Verdes, Carson, Cerritos, Los Angeles, Mechanicsburg 他
- 4) コラム：Pick Up (20/3/15) | 2020年2月26日からの新型肺炎対応記録
Vienna, Santa Clara, Torrance, Berlin, Leipzig, Milan, Namur 他
- 5) レビュー：コンティヌオ・ギルド（通奏低音組合）第5回公演 息吹き～ギャラント
音楽を彩る通奏低音の世界（4）と同数
Basel, Zurich, Taipei City, Berlin, Bruges, Essen, Oldenburg

◆4/15号

- 1) コラム：カリフォルニアの空の下 | オンライン生活のなかのアートの役割
Torrance, Paris, Rancho Palos Verdes, Gardena, Milan, Narwalk, Vienna, Berlin 他
- 2) コラム：ウィーン留学記 | オーストリアのコロナ対策
Vienna, Chicago, Paris, Bratislava, Frankfurt, Ganserndorf, Prunay-le-Gillon 他
- 3) コラム：緊急特別企画 | クラシック音楽とネット配信：オーケストラの取り組み
Chicago, Paris, Singapore, Berlin, College Station, Cologne, Coventry, London 他
- 4) レビュー：ヴォクスマーナ&川島素晴
Chicago, Hamburg, New York, Paris
- 5) 特別寄稿 | 私のフランス、私の音 | (4) 音響と録音の不思議な世界
Paris, Chicago, Thonon-les-Bains, Koblenz, Lohmar, Recklinghausen, Saint-Martin-d'Uriage

◆5/15号

- 1) コラム：特別企画 | コロナ危機と時間
Paris, Taipei City, Ile-de-France, Asnieres-sur-Seine, Brussels, Budapest 他,

- 2) コラム：特別企画 | クラシック音楽とネット配信：オーケストラの取り組み (2)
Chicago, Lazio, Edinburgh, Hamburg, Montreal, Munich, Paris, Rome 他
- 3) コラム：漢語文献学夜話 | Words, the Word, and Concepts
Chicago, Beijing, New Taipei City, Paris, Taiwan Province, Busan, London 他
- 4) コラム：五線紙のパンセ | 日本における舞台芸術の創造的活動 (3)と同数
Chicago, Paris, Columbia, Hamburg, Rotterdam
- 5) コラム：特別企画 | 新型コロナウイルス感染症と日本の音楽文化
Chicago, Taiwan Province, London, Paris, Rapid City, Torrance

◆6/15号

- 1) コラム：特別企画 | 東京都響・COVID-19 影響下における公演再開に備えた試演
Chicago, Philadelphia, Paris, London, Achim, Indianapolis, Budapest, Hai Phong 他
- 2) コラム：特別寄稿 | 私のフランス、私の音 | (6) 女性であること親になること
Paris, Berlin, Chicago, Brussels, Vienna, Brittany, Grand Est, Seoul, Amsterdam 他
- 3) コラム：カリフォルニアの空の下 | オンライン上の芸術教育プログラム
Torrance, Los Angeles, Chicago, Paris, Taiwan Province, Hayward, Redondo Beach
- 4) コラム：特別企画 | 新型コロナウイルス感染症と日本の音楽文化— 2 —
Chicago, Paris, Temecula, Berkeley, Berlin, Torrance
- 5) コラム：特別企画 | クラシック音楽界の新型コロナウイルス対応記録
Chicago

◆7/15号

- 1) レビュー：@調布国際音楽祭 2020 (オンライン)
Chicago, Taiwan Province
- 2) コラム：ウィーン留学記 (最終回) | ウィーンの森の物語——終わり、そして始まり
Vienna, Chicago, Paris, Taiwan Province, Berlin, Pasay
- 3) コラム：特別寄稿 | 私のフランス、私の音 | (7) 発見の旅
Paris, Chicago, Fouesnant, Depok, Ile-de-France, Taiwan Province, Berlin, Brindas 他
- 4) コラム：特別企画 | クラシック音楽界の新型コロナウイルス対応記録 (2020年6月15日~30日)
Chicago, Paris, Pittsburgh, Vienna
- 5) コラム：カリフォルニアの空の下 | “STEAM”教育におけるアートの役割
Torrance, Chicago, Paris, Rancho Palos Verdes, Taiwan Province, Blois, Dusseldorf 他

6) コラム：漢語文献学夜話 | Gutenberg in China (5)と同数)

Chicago, Taiwan Province, Paris

- ★ 新型コロナに対する日本含め各国（アメリカ、ドイツ、オーストリアなど）の取り組み、日常生活を扱ったコラムの海外アクセス数が多いことがはっきりとわかるデータとなった。
- ★ アクセス数の多い連載コラムとしては「漢語文献学夜話」が漢字文化圏のみならずシカゴなどからもアクセスされている。
- ★ レビューで上位に入った3/15号のコンティヌオ・ギルド、4/15号のヴォクスマーナ & 川島素晴、7/15号の@調布国際音楽祭の内、コロナ禍が本格化している中での@調布国際音楽祭のアクセス数の多さはコロナ禍中での演奏会の試みとして大きく注目されたことを証していよう。
- ★ アクセス数の多い都市としてはシカゴが毎月突出して多い。なんらかの要因があると思われるが今の所不明である。

5. 2020年各月総表示数（国内を含む各月1日～末日／調査日毎月末）

1月：16,459

2月：11,891

3月：17,641

4月：12,398

5月：15,983

6月：16,427

7月：10,502

8月：9,854

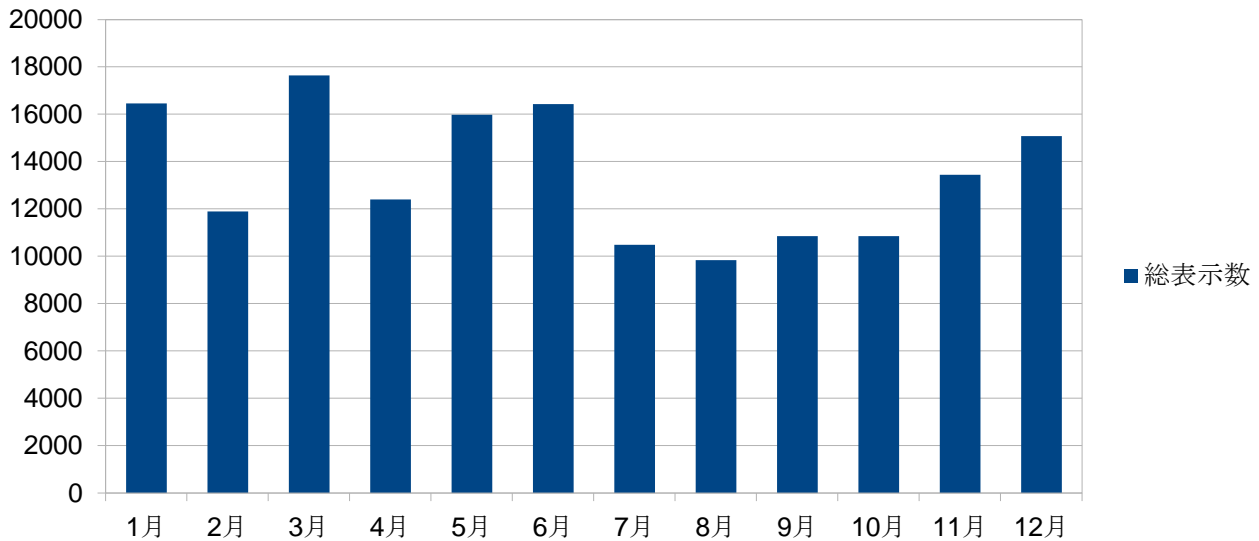
9月：10,847

10月：12,583

11月：13,435

12月：15,094

図5：2020年度月ごと総表示数



- ★ コロナ禍が本格化し、本誌でも「新型肺炎対応記録」を開始した3月が最大の表示数を記録した。総合データ版での指摘通り、ドイツ・レポートへの関心も合わせての数値と思われる。
- ★ 4月はやや表示数が減るも、5,6月と表示数が大きい。
- ★ コロナ禍が一旦沈静化した7月は3月と比べて7,000以上表示数が減じたが、9月から増加に転じ、12月は2020年第5位の表示数まで回復した。
- ★ 現在のコロナ第3波が猛威を振っている中、日本と日本の音楽界がどのようにそれに対応していくか注視せねばならないだろう。